

- 問1 唐や新羅からの侵攻に備えて、九州北部の防衛のために配置された兵士を何という？
- 問2 7世紀後半、壬申の乱で勝利し、天皇を中心とした国づくりを強力に進めた天皇は誰？
- 問3 7世紀前半に栄えた、日本で最初の本格的な仏教文化を何という？
- 問4 釈迦三尊像などに見られる、左右の形が同じになっている特徴を何という？
- 問5 663年に、百濟復興を目指した日本軍が唐・新羅の連合軍に大敗した戦いを何という？
- 問6 604年に十七条憲法を制定し、役人としての心構えや道徳を説いた人物は誰？
- 問7 奈良県の法隆寺などが代表する、現在世界で最も古い建物群のことを何という？
- 問8 聖徳太子が役人の心得として、仏教の「仏・法・僧」を敬うことを記した文書を何という？
- 問9 中大兄皇子らが中心となり、豪族が支配する政治を改め、天皇中心の国家を目指した政治改革を何という？
- 問10 飛鳥時代に、推古天皇の摂政として仏教を広め、法隆寺などを建立した人物は誰？
- 問11 豪族中心の政治から脱却し、天皇が権力を集中させる国家体制を何という？
- 問12 天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子の間で跡継ぎをめぐる起こった大規模な内乱を何という？
- 問13 聖徳太子が、家柄にこだわらず才能や功績のある人物を役人に登用するために定めた制度を何という？
- 問14 飛鳥時代に摂政として政治を行い、法隆寺などを建立した人物は誰？
- 問15 蘇我氏を倒したあとの大化の改新で、土地や人民をすべて天皇のものとする政治のしくみを何という？
- 問16 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？
- 問17 百濟などの朝鮮半島諸国から、高度な技術や学問を持って日本へ移り住み、飛鳥時代の国づくりに貢献した人々のことを何という？
- 問18 十七条憲法において、政治の指針として取り入れられた、インドで生まれ朝鮮半島を経由して伝わった宗教は何？
- 問19 聖徳太子や蘇我氏を中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？
- 問20 聖徳太子が制定し、役人が従うべき命令を説いた憲法を何という？
- 問21 壬申の乱に勝利して即位し、天皇中心の国づくりを進めた天皇は誰？
- 問22 天皇に権力を集中させ、全国を統一的に支配する国づくりを目指す体制を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 防人	政府は国防を最優先の課題とし、九州の北部に「防人」を配置して警備を強化しました。また、九州各地や瀬戸内海沿岸には水城や山城を築き、万が一の侵攻に備える軍事施設を整えました。これらの防人は、東国などから選ばれた農民が任期を終えて交代で任務にあたるものでした。
問2	答え 天武天皇	天武天皇は飛鳥浄御原宮に都を定め、天皇を頂点とする専制的な政治体制を確立しました。また、歴史書である『日本書紀』の編纂を命じ、富本銭の铸造を行うなど、国の基盤整備に力を注ぎました。
問3	答え 飛鳥文化	「飛鳥文化」は法隆寺の釈迦三尊像などに代表される、仏教中心の文化です。建築、彫刻、絵画などにおいて大陸の様式が積極的に取り入れられ、高度な技術が伝えられました。
問4	答え 左右対称	釈迦三尊像に見られる「左右対称」の形は、当時の大陸の様式を忠実に受け継いだ証拠です。中心の仏像の両側に脇侍を配し、均整のとれた安定感のある姿を作ることで、仏の尊厳や穏やかさを表現しました。
問5	答え 白村江の戦い	663年、日本は百済の遺臣とともに大軍を派遣しましたが、白村江で唐と新羅の強大な連合軍に大敗を喫しました。この敗戦は、当時の日本にとって国際的な大きな転換点となりました。
問6	答え 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を主導しました。官位十二階を定めて能力に応じた登用を促したほか、604年には十七条憲法を制定して役人の守るべき心得を示しました。これにより天皇への服従や、仏教・儒教の尊重を求めています。
問7	答え 木造建築	法隆寺の西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物群として有名です。木材の特性を生かした緻密な接合技術や、金堂・五重塔に見られる建築様式は、当時の高度な土木・建築技術を今に伝えています。
問8	答え 十七条の憲法	604年に制定されました。役人が守るべき心構えを全17条で記しており、その第2条には「三宝（仏・法・僧）を敬うこと」が説かれています。儒教的な考え方や仏教の教えに基づき、和を大切にすることなどを強調しました。
問9	答え 大化の改新	645年、中大兄皇子や中臣鎌足らは、強大な権力を持っていた蘇我入鹿を倒し、天皇中心の国づくりを目指す「大化の改新」を開始しました。彼らは「公地公民」を掲げ、土地や民を豪族の手から国家の管理下に移しました。また、税制の整備や中央集権的な統治を目指す制度の導入を行いました。
問10	答え 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を敬う思想を広めました。また、仏教を深く信仰し、法隆寺や四天王寺を建立するなど、宗教面からも国の平和を祈願しました。
問11	答え 中央集権	飛鳥時代から大化の改新を経て目指されたのが「中央集権」です。地方の豪族から土地や民を公のものとする「公地公民」を掲げ、中央政府が全国を一括して管理するシステムを構築しました。
問12	答え 壬申の乱	672年に始まったこの争いは「壬申の乱」と呼ばれ、地方の豪族や兵を味方につけた大海人皇子が勝利しました。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、これまでの豪族中心の政治から、天皇に権力が集中する政治へと大きく転換しました。
問13	答え 冠位十二階	603年に制定された冠位十二階は、役人に大徳から少信まで12のランクを設け、色分けされた冠を授けることで地位を表す制度です。家柄ではなく実力で地位が決まる仕組みを作ることで、朝廷への忠誠心を高め、有能な人材を活用することを目指しました。
問14	答え 聖徳太子	聖徳太子は推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を中心とする秩序を作ろうとしました。また、仏教を深く崇敬し、法隆寺などを建立して文化の発展を支えました。
問15	答え 公地公民	「公地公民」とは、これまで豪族たちが私有していた土地や人民を、すべて国家（天皇）の管理下に置く制度です。これにより、豪族の力を抑えて天皇による一元的な支配体制の基盤を作ろうとしました。
問16	答え 遣隋使	607年に小野妹子らが派遣されました。彼らは隋の皇帝に国書を届けて対等な外交関係を求めるとともに、仏教の教義や政治の仕組みを学び帰国しました。これにより日本には大陸の新しい文化が急速に流入しました。
問17	答え 渡来人	渡来人は、漢字や儒教、仏教などの学問のほか、機織り、金属加工、土木技術、須恵器の製法など、高度な知識や技術を日本にもたらしました。彼らの技術は、大和政権の国づくりや、寺院の建設、都市計画に不可欠なものとなりました。
問18	答え 仏教	仏教は神道と共存しながら急速に広まり、特に聖徳太子がその普及に努めました。法隆寺などの寺院が建立され、仏像や彫刻などの仏教芸術も発展しました。十七条憲法でも、仏教を篤く敬うことが説かれています。
問19	答え 仏教文化	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。中国の南北朝時代や朝鮮半島の文化の影響を強く受けており、大陸風の優美な建築や彫刻が特徴です。法隆寺などの寺院が代表的です。
問20	答え 十七条の憲法	604年に聖徳太子によって制定された「十七条の憲法」は、役人が守るべき道徳や心構えを説いたものです。特に「和をもって貴しとなす」という言葉が有名で、天皇への服従や、仏教を重んじることを説いています。
問21	答え 天武天皇	天武天皇は、即位後に天皇中心の政治体制を整えました。皇親政治を行いながら、律令制度の導入に向けた整備や、歴史書の編纂を命じるなど、国家としての骨格作りを行いました。
問22	答え 中央集権国家	中央集権国家とは、天皇や朝廷が中心となって、全国の土地や人民を管理し、法律に基づいて統治を行う体制のことです。冠位十二階や公地公民といった制度は、まさにこの体制を実現するための手段でした。